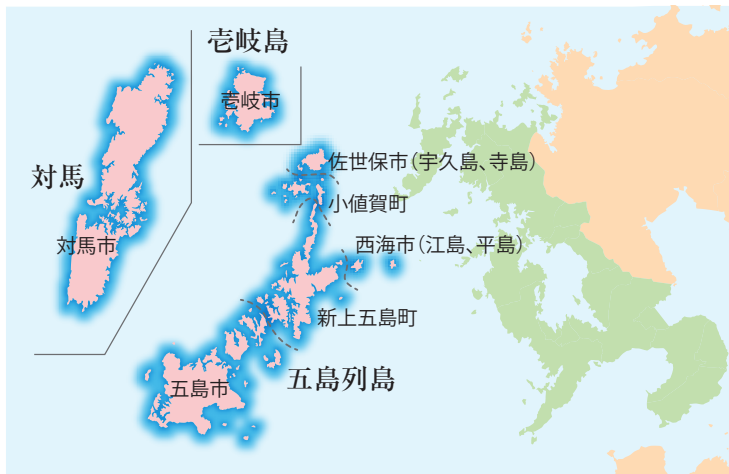


しまの人口減少に歯止めをかける

■本県の特定有人国境離島地域（「有人国境離島法」の対象地域）



人口流出が進む「しま」

全国一の離島県である本県では、しまの振興を最重要課題として取り組んできましたが、しまの人口は、昭和35年の32万8千人から、平成27年には12万4千人まで減少し、雇用の場の不足などから若者を中心とした人口流出に歯止めがかからない状況が続いています。

国の主な支援制度

①しまでの創業・事業拡大の推進

雇用を増やすため、創業や事業拡大を支援

◎対象経費
設備費、改修費、広告宣伝費、人件費など※上限等あり《事業者負担25%》

②しまの産品の輸送費の支援

農水産品（加工品以外）の出荷や原材料等の輸送にかかる費用を支援

◎対象経費
海上、航空輸送にかかる費用 《事業者負担20%》

③「もう一泊」を促す観光の取組の推進

しまならではの魅力や観光サービスの充実、新しい旅行商品化などを促進

◎事業内容
しま滞在型の旅行商品の開発、観光まちづくりなど

④航路・航空路運賃の引き下げ

しまに住み続けられる環境を整えるため、住民の航路・航空路運賃の引き下げを支援

◎引き下げ内容
フェリー：JR在来線並 高速船：JR特急自由席並
ジェットフォイル：JR特急指定席並 飛行機：新幹線並

昨年制定された「有人国境離島法」が、4月1日から施行されます。
この法律に基づく国の施策等を活用し、しまで暮らす皆さんの航路・航空路運賃の引き下げ、しまの地域資源をいかした雇用の場づくりなどに取組みます。

※有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法（本県選出の国会議員のご尽力により議員立法で成立）

産業を振興し定住を促進

問合せ

県の地域づくり推進課
☎095-895-2247

長崎県有人国境離島 検索

地方創生を進めるために

長崎県は人口減少という課題に50年ほど前から直面しています。全国的に人口減少社会に突入する中、この課題を解決していくためには、これまでの取組に加え、より踏み込んだ取組を行うことが不可欠です。

本県における地方創生を着実に進めるため、県や市町の取組に加えて、県内企業に就職していただくことや企業において出産や子育てをしやすい職場環境の整備をしていただくなど、県民の皆さんや企業の皆さんなど一体となって取り組む必要があります。

活力ある長崎県を将来に確実に引き継いでいくため、県民の皆さんの地方創生へのご理解とご協力をお願いします。

移住検討から地域への定着まで切れ目なく支援

U・イターン者受け入れで地域を活性化

近年の地方移住への関心の高まりを受け、本県へのU・イターン者数は増加しています。

U・イターン者を呼び込むことは、人口が増えるだけでなく、地域コミュニティの担い手が確保されたり、地域に眠っていた魅力が掘り起こされたりするなど、地域が活力を取り戻すきっかけにもなっています。U・イターン者の受け入れには、地域の皆さんの温かいサポートが欠かせませんので、県民の皆さんのご協力をお願いします。

ながさき移住サポートセンター

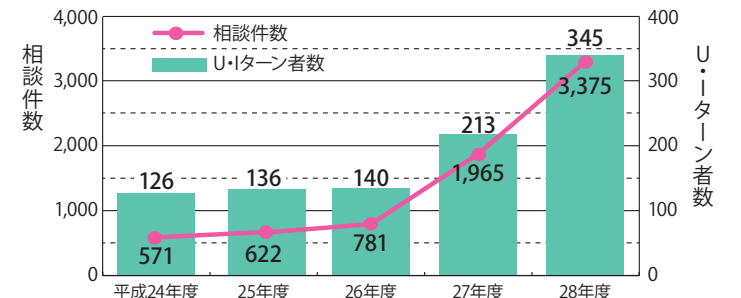
県と県内21市町が共同で運営し、専任の相談員による県内企業等への就職・転職や市町の「空き家バンク」等と連携した住まい探しのお手伝いなど、さまざまなサポートを行っています。ご家族からの相談も受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

また、移住支援専用ホームページ「ながさき移住ナビ」やフェイスブックでも、U・イターンに役立つ旬の情報を発信しています。



長崎本部 ☎095-894-3581
東京窓口 ☎080-7735-3852

相談件数とU・イターン者数の推移

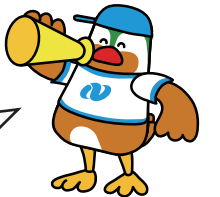


※平成28年度は平成29年1月31日現在

◎長崎県移住相談会のご案内

福岡会場 4月23日(日) JR博多シティ10階
名古屋会場 5月21日(日) AP名古屋・名駅8階
東京会場 6月11日(日) 東京交通会館12階

東京や名古屋、福岡にお住まいの知人・親戚の方へお知らせください!



Uターン移住者の方から

なが た けん ぞ
永田憲吾さん(諫早市へUターン)

大学進学で島原市を離れ、東京の新聞社に勤めていた永田憲吾さん。両親の近くで暮らしたいと考え、移住サポートセンターに相談したところ、仕事のことだけでなく住まいなどの紹介も受け、昨年、諫早市へUターンしました。

「長年、東京で暮らしていましたが、通勤ラッシュもなく、食べ物もおいしい自然豊かなふるさと長崎県に戻って来てうれしく思っています。転職の面で心配もありましたが、親身に相談に乗ってもらい、ありがたく感じました。また、都会暮らしに比べて家賃などの出費も減りました。



「両親の近くに住むことで親孝行の機会が増えました」と憲吾さん(写真左)

実家にも近くなったので、これから両親とともに楽しみたいです」と話す憲吾さんは、ふるさとで新たな一歩を踏み出しています。

また、ご両親も「息子が近くに住むようになって、頻りに顔を合わすようになったし、頼もしく感じています」と喜んでます。